

皆さまの 愛に満ちたご支援により、 子どもたちを安心して 育てられる地域になりました



笑顔の子どもたち。チャイルド・スポンサーの皆さまと築いた強い絆は子どもたちにとって輝かしい未来への希望となっています

13才のスーザンちゃんは、笑顔で手の平いっぱい溜めた水を飲んでいました。スーザンちゃんはカイニ小学校に通う4年生です。カサウォ地域開発プログラム(以下ADP)にあるカイニ村の人々とスーザンちゃんの家族は何年もの間、沼の不衛生な水を飲むしかありませんでした。牛や山羊などの家畜により汚染された水は病原菌を含んでいました。「汚染した水を飲むことにより、病



嬉しそうに井戸の水を飲むスーザンちゃん

気は子どもたちに蔓延しました。下痢や寄生虫によって腹部が腫れました。雨季には、雨水が沼に流れ込むため、特にひどいものでした。」と、カイニ村の住人でワールド・ビジョン・チャイルド担当のマジドゥが言います。スーザンちゃんも当時の状況を話してくれました。「前はしょっちゅうお腹が痛かったの。でも、すぐくのどが渴いて沼の水を直接飲むしかなかった。寄生虫で体の具合が悪くなるから、水を沸騰させるべきだった。でも、井戸水は沸騰させずに飲んでも具合が悪くなることはないの。」

沼が遠距離の場所にあったため、スーザンちゃんや他の子どもたちは水汲みのため、沼への往復に長時間取られていました。本来、この時間は学校で勉強したり、家の手伝いに使われるべき時間でした。

カサウォADPは、地域の公衆衛生と衛生習慣を改善するため、学校や地域にトイレを設置し、井戸を作ったほか、学校や家に水を安全に管理できる貯水タンクを支援しました。

支援により地域の子どもの健康状態は改善し、スーザンちゃんは毎日学校へ元気に通っています。スー



地域の子どもたちが、水汲みに来ています。以前は長距離を歩いて水汲みに行かなくてはなりませんでした。井戸が完成したことにより、長い時間歩かなくて済むようになりました。また、井戸の清潔な水のおかげで、子どもたちの健康状態も改善しました

ザンちゃんの好きな科目は算数です。将来はウガンダでは数少ない女性パイロットになる夢に向かって頑張っています。

1. **「教育」** 地域の人々の教育の重要性に対する認識が変化し、子どもたちが学校に通えるようになりました
2. **「農業」** 農作物の収穫量が増え、支給した家畜のミルクなどを通して子どもたちの健康状態が改善しました
3. **「保健衛生」** 保健センターが完成し、井戸からの清潔な水を飲むことができ、正しい衛生知識を得て子どもたちが健康に暮らせる環境が整いました
4. **「HIV/エイズ」** HIV/エイズの感染率が減少し、地域住民組織が立ち上がり、住民同士が助け合いながら問題解決するという意識が芽生えました

カサウォADPは、貧困に苦しむ人々の生活向上を目指して1995年度より活動を開始しました。18年間の長きにわたるチャイルド・スポンサーの皆さまからの温かいご支援により、地域の子どもたちと人々の暮らしは大きく改善しました。同時にADPと協力して歩んできた地域の人々にも様々な活動を通して自分たち自身で問題を解決し、今後の地域の発展を担っていく力がつきました。ここに、心より深い感謝をもって、ご支援の成果をご報告いたします。



ADPの最終目標(1995年度～2012年度)

「カサウォ地区に住む子どもたちや人々が貧困から脱却し、教育、保健衛生、HIV/エイズ、農業等の分野における支援によって、住民の生活向上を目指すとともに、住民自身が自分たちの生活を改善していく能力を身につける」



支援開始前は子どもが初等教育を修了できる比率が約30%でしたが、支援終了時には約90%になりました

支援地概要

カサウォADPは、ウガンダの首都カンバラより北東に80kmの場所に位置するカサウォ副群の41村に住む約31,000人の地域住民を対象に1995年度から支援活動を実施してきました。ウガンダは、1962年の独立以来、度重なるクーデターや内戦の影響で政治的・経済的混乱状況が長く続き、1986年に現・ムセベニ政権が確立

されて、ようやく全土が平定されました。20数年におよぶ政治的・経済的混乱による社会への影響は大きく、人々の生活が困窮し、子どもたちを取り巻く環境にも影響を落としていました。貧困に苦しむ多くの人々がADPの支援によって生活を大きく改善することができました。

年度	支援による主な活動	ウガンダの出来事
1995	ADP開始。カサウォ郡の6地区を対象にHIV/エイズ、保健、教育、農業等の分野での支援を開始	ウガンダ政府とLRA(反政府武装勢力)の和平交渉失敗
1996	地域でも深刻なHIV/エイズ問題に対し、予防の啓発や感染者への対処療法などの支援に力を入れて取り組む	大統領・国会議員選挙にてムセベニ大統領が当選
1997	モデル農園の運営と農業技術研修により、地域農民の収穫量が大きく向上	初等教育の無償化

年度	支援による主な活動	ウガンダの出来事
1999	カキラ孤児院小学校の新校舎完成。安心して教育を受けられる環境が完成したことにより、生徒数が増加	ウガンダ政府とスーダン政府の間で和平交渉が結ばれる
2000	教育分野を重点的に支援。教室の増改築や制服・学用品の支給等により就学率が増加	白ナイル川を利用したナルバーレ発電所の電力供給開始により東アフリカで主要発電国となる
2001		ムセベニ大統領再選
2002	1990年代初期、約15%だったウガンダのHIV/エイズ感染率が多く、多くの支援団体や政府の取組により約5%まで減少	ウガンダ政府がLRA一掃作戦を遂行
2005	チャイルド・スポンサーの「地球あちこち～ウガンダを知る旅」を開催	
2006	支援により成長した農業組合が大規模な農業見本市に参加	ムセベニ大統領三選/ウガンダ政府とLRAの間で停戦合意が締結
2007	2棟の職業訓練校が地域内に完成。洋裁、大工等の技術訓練を開始	エボラ出血熱発生。国内で51人が感染
2009	支援の終了に向けて、地域組織のトレーニングや人々の自立性の確立に重点を置く	
2010	チャイルド・スポンサーの「地球あちこち～ウガンダを知る旅」を開催	
2011	住民組織の活動が県で一番活発な地域と言われる	ムセベニ大統領四選
2012	ADPによる支援終了。地域住民組織が活動を継続	ウガンダ政府がHIV/エイズの母子感染撲滅計画に着手



【2007年】
地域内に完成した職業訓練校



【2000年～2001年】
増改築した校舎で制服を支給された生徒たち



【2010年】
「地球あちこちウガンダを知る旅」にてスポンサーを見送る子どもたち。スポンサーとチャイルドは楽しい時間をともに過ごし、スポンサーには、ADPの進捗状況も確認していただきました

教育 地域の人々の教育の重要性に対する認識が変化し、子どもたちが学校に通えるようになりました

●支援の成果

支援前は、地域に住む親たちの子どもの教育に対する重要性の認識が低いため、多くの子どもたちは農作業・家事の手伝いや水汲みに時間と労力を割かれ学校へ通うことができませんでした。また、学校に通えたとしても木の下で授業を受けたり、すし詰め状態の狭く暗い教室で勉強していました。教育環境が整っておらず、教材不足や教師の訓練不足等により授業の質は低く、小学校を卒業しても中学へ進む子どもは3割以下と高等教育に進めるレベルまで習熟するには至らないことがほとんどでした。

地域の大人への識字教育を行うことにより、大人の仕事の幅を広げ、親たちへ教育の重要性を啓発しました。PTA等を通して学校教育について真摯に考え、子どもに通学を奨励する親が増えました。特に女の子は家事手伝い等のため、学校に行かせてもらえないことが多かったのですが、ほとんどの子どもが教育を受けられるようになりました。教室の建設や改修とともに机、椅子など備品整備に加え、トイレを設置しました。学校へのアクセスや学校環境の改善により多くの生徒が学校で安心して勉強できるようになり、現在では約9割の子どもが学校に通うまでになりました。また、アクセスの悪い地域の学校に簡易教員室(兼宿舍)を建て、教師を確保するとともに、適切な教材の配布と教師へのトレーニングにより子どもたちが受ける教育の質が改善しました。

その他、経済的な理由で学校で勉強を続けることができない子どものために奨学金を提供することで、高等教育への進学率が増加し、退学者も減少しました。同時に、早期妊娠、結婚による女性の退学者も啓発活動によって減少させることができました。

さらに、初等、中等教育を終えた若者への職業訓練(裁縫、大工技術など)の機会を提供し、多くの若者が職業訓練校で得た技術を生かして職につけるようになりました。若者たちは稼いだ収入で家計を助け、薬や食料、教育費等に充てています。



安心して学校で教育を受けられるようになりました。休み時間、外に出てきた子どもたち

訓練校で得た技術を生かして職につけるようになりました。若者たちは稼いだ収入で家計を助け、薬や食料、教育費等に充てています。



コンクリートの壁と床のおかげで、風の強い日でも土埃に悩まされることなく、勉強に集中できるようになりました

1995年度 → 2012年度

識字率

50% → 73%

初等教育修了率

約30% → 約90%

学校

屋外で授業を受けていた(青空教室) → 90%以上が適切に管理された学校で授業を受けている

障がいをもった子どもの就学率

約2% → 約5%

農業

農作物の収穫量が増え、支給した家畜のミルクなどを通して子どもたちの健康状態が改善しました

●支援の成果

支援前のカサウォ地域は、ほとんどの家庭が農業で生計を営んでいるものの、元々土地が痩せていることや、農業技術の低さから農家が十分な収穫を得ることもできず、食べていくこともままならない状況でした。長期間にわたる支援で、多くの家庭において農業技術の向上により収穫量が増加した結果、増えた収入は子どもたちへの十分な食事や教育費に充てるできるようになりました。また、畜産を導入し、ミルクが得られるようになり、子どもたちの栄養改善に貢献したほか、家庭の収入向上にも繋げることができました。

ADPの農業支援は地域農業組合と協力しながら段階的に進められてきました。支援の初期は、地域の痩せた土地でも作物を育てられるように現地の環境に強い種や栽培に必要な肥料の配布から始め、地域の人々との信頼関係が強くなったころに6つの地域農業組合を立ち上げました。ADPは各組合や政府と協力しながら、肥料や防虫剤の導入を含めた栽培技術研修、稲作、小型農機の導入等を通して農家の農業技術の向上に努めました。その後、小規模灌がいの整備、畜産の導入や組合による小規模ビジネスを始め、農家の生活の安定のためのさらなる収入向上に貢献しました。



農業技術の向上により、豆、穀物、野菜の収穫量が増え、収入向上につながりました



支給された足踏みポンプを使用する人々。乾季でも作物栽培が容易になり収穫量が増えました



支援により支給されたヤギを飼育する子ども

1995年度 → 2012年度

収穫量

収穫量が少なく食べて行くのもままならない農家が多い → 農家の技術向上や栽培環境の整備により収穫量が増えた

食事の回数

ほとんどの家庭が一日の食事は2回以下 → 約6割以上の家庭が一日3回食事をとっている

●支援の成果

1990年代から2000年の初期まではさまざまな病気が地域の人びとを苦しめており、保健・衛生分野の改善が急務でした。特に貧しさが原因で、栄養状態が悪く抵抗力が弱い子どもを対象にBCG、ポリオ、はしか、ジフテリア等の予防接種を行った結果、病気への感染を防ぐことができました。また、地域の子どもの最悪の場合死に至らしめるマラリアの予防として、マラリアを媒介とする蚊から身を守るための蚊帳を配布しました。同時に、疾病の予防・対策に関する啓発を行い、その結果、地域住民がさまざまな病気から身を守ることができるようになりました。

保健所の修復、建設と同時にスタッフの研修による地域保健サービスの改善や、地域ヘルスワーカーの育成による巡回保健サービスの充実にも大きく貢献しました。住民組織と一体となり、長きにわたり、話し合いや啓発活動、研修等を重ねてきた結果、支援地域には、役割や業務の責任に対して高い意識を持った保健所スタッフや地域ヘルスワーカーが育ちました。ヘルスワーカーは地域住民への病気への対処や啓発活動といった保健サービスを継続しながら、よりよい保健環境を目指して奔走しています。また、住民の生活に欠かせない水へのアクセスや衛生環境の改善にも、井戸やトイレの設置、水管理委員会の組織化、衛生面における知識の啓発活動等行いました。汚れた水や不衛生な環境に起因する病気の減少、子どもたちの水運びにかかる労力と時間の軽減等の成果が確認されました。



完成した保健センターで治療に訪れた人々と話す医師



水タンクの設置により、安全な水をいつでも飲むことができるようになりました

1995年度 → 2012年度

疾病に関する知識

疾病の予防方法について知識がない



適切な予防方法や知識を得て対処することにより、病気に苦しむ人々が大きく減少した

保健サービスへのアクセス

保健サービスへのアクセスがほとんどない



保健所が平均3km以内にあり、地域のヘルスワーカーの訪問を定期的に受けることができる

水汲み労働

子どもや女性が水汲みのため多くの時間を費やす



安全な水へのアクセスが改善し水汲みの労力が軽減

衛生環境

汚れた水や不衛生な環境が起因する病気にかかりやすい



清潔な水を手に入れることができ、衛生環境が改善し、病気が減少した

HIV/エイズ

HIV/エイズの感染率が減少し、地域住民組織が立ち上がり、住民同士が助け合いながら問題解決するという意識が芽生えました

●支援の成果

支援地では1990年代に15%までHIV/エイズの感染率が高まっていましたが、政府との協力のもとで対処や予防に関する啓発活動を実施し、感染率を減少させることができました。また、HIV/エイズの感染により生活困難に陥った人々やエイズにより親を亡くした子どもたちの支援を行いました。

HIV/エイズの感染者やエイズで親を亡くした子どもたちは困難な生活を強いられていましたが、薬物治療や免疫状態の検査への支援、HIV/エイズの患者グループへの収入向上支援、患者を支援するための地域のケアグループへの研修や、感染者やエイズで親を亡くした子どもたちの権利の働きかけ等を実施した結果、HIV/エイズとともに生きる人々の支援体制が改善し、政府や関連団体が定期的な家庭環境の調査をするなど、人々が地域で安心して暮らせるような環境が整いつつあります。



HIV/エイズ対策のための地域住民組織を立ち上げました。HIV/エイズ予防のための啓発に取り組み、HIV/エイズによって親を亡くした子どもの家庭を支えています

1995年度 → 2012年度

HIV/エイズの感染率

HIV/エイズへの高い感染率(約15%) → 予防知識の普及により約5%まで減少

保健サービス

患者への対処、治療環境が乏しい → 薬やカウンセリング等の適切な保健サービスを受けられる

HIV/エイズへの偏見や差別

HIV/エイズ感染者への偏見や差別による社会的孤立 → 正しい理解が深まり、患者やその家族が適切な対処とともに地域に支えられる環境が整いつつあり、周囲と助け合う環境ができた

収入向上

HIV/エイズ感染者やエイズ患者は収入手段がほとんどなかった → 職業訓練により自分たちで収入を得ることができるようになった

支援終了後も活動は続いていきます — プログラムの持続性・発展性 —

2012年9月でこの地域でのワールド・ビジョンのすべての活動は終了し、ワールド・ビジョンと住民委員会の間で合意書を締結し、ワールド・ビジョンが運営、管理してきた活動や資産等を移管するとともに、住民委員会が地域のさらなる発展のために中心的な役割を担っていきます。

支援期間の最後の数年は、地域住民自身による活動の持続性や発展性に焦点をあてて様々な働きかけを行ってきました。住民が地域にどのような問題があり、どう対応するべきか話し合ったり、地域組織がワールド・ビジョンの実施してきた活動やサービスを引き継いだりと、活動の主体がワールド・ビジョンではなく、地域の人々となるようにワールド・ビジョン主体の支援を縮小しながらゆっくりと地域の人々へとバトンを渡す作業を行ってきました。その結果、地域住民たちは、自信を持って地域活動を引き継ぐことができました。

また、地方政府と住民組織の関係を強化するため、地方政府と多くの活動を共同で行ってきました。同時に、地域住民には、政府の役割(子どもの権利の保護、教育や保健サービスの保障等)を深く理解するための研修を行い、地域住民の要求が政府に声として届き、政府が住民の要望に適応した行政サービスを行うといった、地域発展のための仕組み作りにも力を注ぎました。

このように、今後は今までのワールド・ビジョンの活動が地域住民によって引き継がれるとともに、政府や様々な地域組織が一体となってよりよい地域を作っていくために協力して動き出しています。



今後は住民委員会を中心に地域の子どもたちや人々の生活の改善に貢献していくことが多いに期待されます

ADPマネージャーからの感謝の言葉

親愛なるスポンサーの皆さまへ

ADPスタッフ、そして地域の子どもたちを代表してご挨拶申し上げます。

私たち自身、スポンサーの皆さまとワールド・ビジョン・ジャパンに支えられながらここでの働きを楽しみ、地域の人々と子どもたちをよりよい未来へと導けたことを誇りに思っています。子どもたちを間近で見えてきて、プレゼントや手紙のやりとり、支援地訪問による子どもたちとの面会によって築かれたスポンサーの皆さまとの強い絆は、子どもたちの輝かしい希望となることが確信できます。

日本のスポンサーの皆さまが18年もの長きにわたってカサウォ地域と、ここに住む子どもたちを気にかけて、支援してくださったことへの心からの感謝を改めてここに表します。皆さまが子どもたちの生活や病気・障害等に苦しむ地域の人々に蒔いてくださった種は、彼らの希望と尊厳を育み、地域発展への活力となりました。

カサウォADPマネージャー

ロナルド・マタンダ



地域リーダーからの感謝の言葉

カサウォ地域を代表し、日本のスポンサーの皆さま、ワールド・ビジョン・ジャパンへ心から感謝申し上げます。貧しく、厳しい環境にあった私たちの地域を、愛に満ちた支援によって、地域の皆が望んでいた子どもを安心して育てられる現在の環境にまで改善できたことに日々深い喜びを感じています。ADPによる教室の増築や、子どもが教育を受ける権利を親たちへ啓発するといった活動が積み重ねられてきた結果として、大人たちが適切な教育環境を作り、子どもたちが質の良い教育を受けることができています。穀物や野菜の種、家畜の支援によってもたらされた収入により、子どもたちへの教育費や薬代、そのほか生活必需品をまかなうことができました。保健分野では、ADPの支援によって研修を受けたヘルスワーカーが地域を巡回し、衛生教育やマラリア、HIV/エイズの予防や対処に取り組んでおり、以前から大きく感染者数が減ったのはもちろん、HIV/エイズ感染者への薬の配布やエイズにより親を亡くした子どもたちのケアがヘルスワーカーによって続けられています。このようにカサウォ地域では言葉では表しきれないほど多くのワールド・ビジョンによる支援と協力を受けてきました。同時に、地域との協力による継続した活動によって、我々地域住民自身にも、地域における子どもの大切さを噛みしめ、自分たちで収入を得る力をつけ、周囲の人々と協力して生活を改善していく力がつきました。ワールド・ビジョンとともに歩んできた長い旅が終わろうとしています。今後も日本のスポンサーの方々とワールド・ビジョンが私たちに与えてくれた希望を胸に、よりよい地域社会を目指して皆で頑張っていきます。私たちの地域を支援してくださり本当にありがとうございました。

マセンベ・ジョージ

カサウォ地域リーダー



●お問い合わせは… 特定非営利活動法人 **ワールド・ビジョン・ジャパン**

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail: dservice@worldvision.or.jp ホームページ:<http://www.worldvision.jp/>

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。